

109 フランスの伝統工芸と日本の現代アニメの出会い（2022 年 4 月 28 日）

3 月 25 日、パリから約 400 キロ南に位置するオービュッソン (Aubusson) で、新たなタペストリーがお披露目されました。そのタペストリーは、宮崎駿監督のアニメ映画「もののけ姫」の一場面を描いたものです。フランスの伝統的な技術を使って、日本の現代のアニメの一場面を再現する素晴らしいプロジェクトが幕を開けました。

オービュッソンのタペストリーは 600 年の歴史を持ち、その技術は 2009 年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。2016 年に開館した国際タペストリーセンターは、文化的な遺産のタペストリーの修復、保存と展示や職人の育成を行っています。現代作品の制作にも力を入れており、2019 年にスタジオジブリと正式に提携して、「オービュッソンのタペストリーで織る宮崎駿の空想世界」と題したプロジェクトを立ち上げました。これは、宮崎駿監督のアニメ映画 4 作品から 5 つの場面を選び、5 枚のタペストリーを制作するものです。



一作目となる「もののけ姫」の中から選ばれた森を描いたシーンの作品は、5m × 4.6m の大きさで、色鮮やかで森の奥行が感じられ、本当に光が差しているかのように見えます。平面の織物とは思えません。近くで見ると、複雑な色のグラデーションを使い、場所によって異なる織り方をすることで、立体感を出していることが分かります。約一年をかけてこの作品を織りあげた職人の緻密で根気のいる作業は、称賛に値します。

二作目となる「千と千尋の神隠し」のタペストリーは、本年末の完成を目指して制作が進んでいます。このタペストリーを作るために、500 色もの糸が使われるそうです。その後は、「ハウルの動く城」から二作品と「風の谷のナウシカ」から一作品が制作され、2023 年末に全ての作品が完成する予定です。二作目以降の作品の完成も楽しみです。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本



このプロジェクトを通じて、日本とフランスの宮崎監督のアニメ映画のファンが、オービュッソンとそこで作られるタペストリーを知ることになるでしょう。宮崎アニメを知らないフランス人にとっては、宮崎アニメを通して描かれる日本の文化や考え方を知るきっかけになるかもしれません。多くの日本人にとって、タペストリーと言えば、中世の城か美術館で観るヨーロッパの織物で、色褪せたものを想像すると思います。このように色鮮やかで、アニメの場面を描いた作品は、日本人のタペストリーに対するイメージを変えるものです。タペストリーとアニメという意外な出会いは、オービュッソンのタペストリーに新たな価値を与えるだけでなく、日本とフランスの文化交流の発展を大きく後押しするものとなるでしょう。

オービュッソン国際タペストリーセンター <https://www.cite-tapisserie.fr/%E3%80%8C%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E9%83%BD%E5%B8%82%E3%80%8D%E3%81%A8%E5%8D%9A%E7%89%A9%E9%A4%A8>（日本語）

